

株式会社ヒューマンリンク HUMAN LINK Inc.

リハビリ特化型 デイサービスを全国展開 科学的評価・検証を重ねながら 介護予防のインフラを目指す



株式会社ヒューマンリンク
代表取締役

タ ナカ ノリ オ
田中紀雄氏

profile

昭和49年、岩見沢市生まれ。札幌学院
大学経済学部卒。民間会社勤務を経て、
平成22年(株)ヒューマンリンク設立。
一般社団法人カラダ研究所代表理事。

生活につながる リハビリを提供

平成二十三年二月、リハビリ特化型
デイサービス施設「カラダラボ」の二号
店が江別市上江別にオープンした。そ
れからわずか三年、同施設は札幌圏を
中心に道内、道外へネットワークを広
げ、五十店舗を超える勢いで開設ラッ
シュを続けている。

「高齢化社会が急速に進む中で自
立支援が求められていますが、介護度
の高い人向けの施設が多い反面、介護
保険の報酬単価が低い軽度の人が選
べる施設は不足していました。また病
院でのリハビリは、日数制限があるた
め、退院後の受け皿も少ない状況でし
た。そうした介護難民やリハビリ難民
と呼ばれる方が、日常生活の維持向
上に努められる場所と時間を提供し
たいと考え、カラダラボを開設しまし
た」と田中社長は語る。

「従来の通所介護は家族の負担を
軽減するために預かるだけの施設が
多く、リハビリをして生活機能を回復
したい、介護度が上がることを防ぎた
いというニーズには応えられていま
せんでした。そのため最近では機能訓練
型デイサービスを提供する施設が増
えてきましたが、それらの多くはトレ

key
point

自分もいずれは後期高齢者になる その時の未来を、今つくっている

ニングマシンを使用したいわゆるパワー
リハビリです。マシン運動によって鍛え
られる表層筋(グローバルマッスル)は動
作そのものに関与しますが、それを支
えているのは深層筋(ローカルマッスル)
です。この深層筋が動作を安定させ、
また全ての動作に先行して活動する身
体のコントロールに重要な要素なので
す。カラダラボでは、ノルウェー式理学
療法「レッドコード」を使い、この深層筋
の強化を行っています。自らの身体をコ
ントロールする能力を取り戻してこそ

真のリハビリと考えています。

例えば曲がらなかった肘が曲がるよ
うになる。それは「機能の回復」ですが、
もう一步「能力の回復」まで実現する
ことが必要です。肘を曲げてお茶を飲
めるなど、そこまで回復して「リハビ
リ」と呼べます。私たちは食事や排泄
など「ADL(日常生活動作)」、さら
に、バスに乗る、買い物に行くなど「I
ADL(手段的日常生活動作)」を向
上させるための、生活につながるリハビ
リを提供しています。

昨年一月には一般社団法人カラダ研
究所を設立し、田中社長が代表理事
を務める。カラダラボと連携してリハ
ビリの結果・効果を集計・検証し、高齢
者に最適な運動療法を確立しようと
する取り組みは、札幌市の健康サビー
ス産業推進事業ビジネスモデルコンテ
ストにおいて、優秀モデルに選ばれた。
「わが社の強みは、カラダラボでの
取り組みを科学的に評価・検証する
仕組みを確立している点にあります。
何が正しい運動かを日々評価・検証し、
その結果をリハビリテーション・ケア合

同研究会などで学会発表しています。
昨年は三つの症例研究報告を発表さ
せていただき、高い注目を集めました。
今後も確かな評価・検証を重ね続け、
私たちの施設で集めた科学的根拠が
社会的資源として有効活用されるこ
とを確信しています。

来るべき超高齢化社会を見据え さらなる事業拡大を狙う

同社は昨年、新業態となる中重度
者対応強化型「デイサービス」「らいふて
らす」をオープン。こちらもカラダラボ
同様、順次拡大している。

「『らいふてらす』は生活環境を再現
した施設で、中重度化予防を目的と
したりハビリを提供するために開設し
ました。

カラダラボのリハビリノウハウを加
えたお泊りデイサービスで、身体機能・
能力を回復し、出来るかぎり在宅で
の生活を送っていただけることを望ん
でいます。また年内には障がい児のた
めのリハビリ施設も開設予定です」と
さらなる事業拡大を狙う田中社長。
「私たちは『医療と介護の中間の産
業を生み出し、社会に貢献する』こと
を企業使命としています。医療と介護
の連携強化を図る地域包括ケアシス

テムの構築において、私たちのサービ
スは今後さらに大きな役割を果たすも
のと考えます。二〇二五年には第一
ベビーブーム世代が後期高齢者とな
り、高齢者人口がピークとなる超高
齢化社会が訪れます。その時点がピーク
であるなら、以降は下り坂となり、業
界内の淘汰が進むことになることが
予想されますので、それまでに社会の
インフラとなるべく企業努力を重ねて
まいります。少子化も進み、二〇五〇
年には、高齢者一人を二〜三人で支
える時代になると言われ、その頃には私
も後期高齢者の一人になっていきます。
その時になっても施設や医療・介護従
事者が質量ともに不足しているよう
では、満足できる日常生活をおくれませ
ん。現在のこの事業にかける思いは、
「自分の未来を自らつくる」という使
命感にもつながっているのです」。



レッドコードを使用したリハビリプログラムを提供する「カラダラボ」

information

(株)ヒューマンリンク

〒江別市文京台東町11-31

☎ 011-398-8787

🌐 <http://www.human-link.co.jp/>